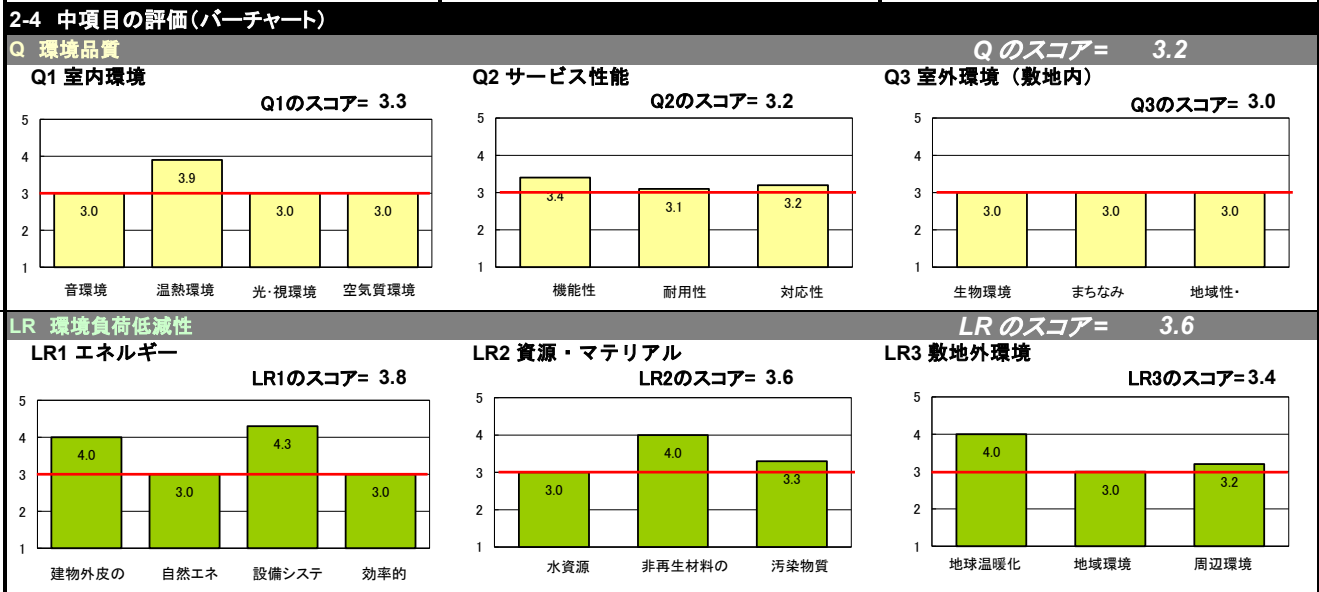
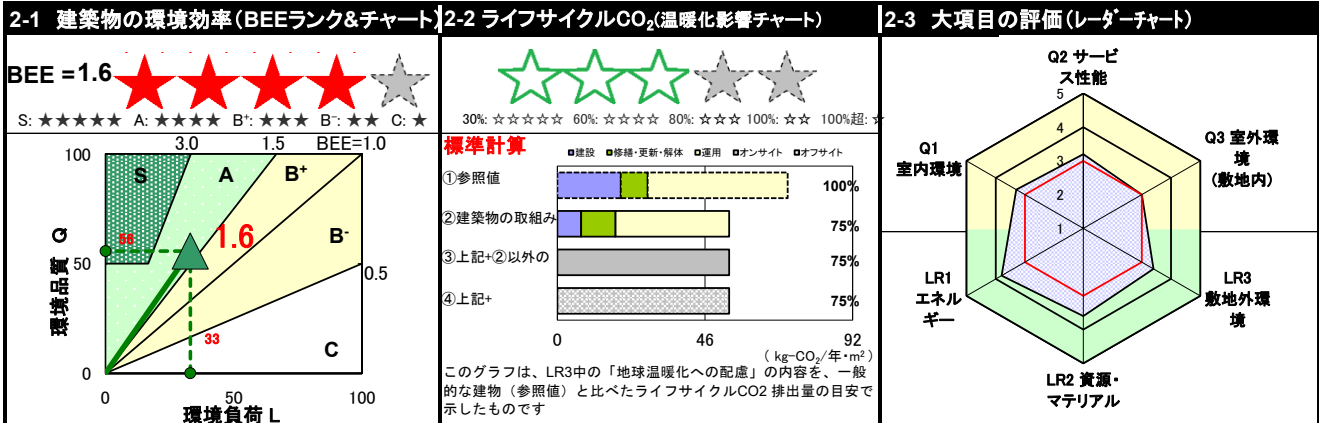


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)青葉区美しが丘2丁目計画 新築工事	階数	地上7F
建設地	神奈川県横浜市青葉区美しが丘二丁目26番5外	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,096 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2030年2月 予定	評価の実施日	2026年1月13日
敷地面積	14,400 m ²	作成者	株式会社IAO竹田設計
建築面積	6,064 m ²	確認日	2026年1月13日
延床面積	26,450 m ²	確認者	株式会社IAO竹田設計



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・CASBEE横浜2025年版による評価結果である。 ・神奈川県横浜市 東急田園都市線たまプラーザ駅の北約500mに位置する共同住宅である。 ・美しが丘公園や街路樹、学校、周辺敷地などのまとまりのある緑と調和し一体となった、緑豊かで潤いのある街並みを形成する。		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・住居において、底及びカーテンにてグレア制御を行っている。 ・非喫煙者の健康と快適性に配慮した環境づくりを行っている。	・耐用年数の長い内装仕上げ材を使用を採用し、更新必要箇所に配慮している。	・建築物と緑の調和を図り、高木と中低木を組み合わせた量感のある植栽を行っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・建物外皮の断熱性能に配慮している。	・躯体と仕上げ材が容易に分別可能な構造とし、部材の再利用について配慮している。	・光害対策ガイドラインチェックリストの項目の過半を満足し、広告物照明を設置していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要		<非住宅>		受付日 2026年1月19日	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。				建物名称 (仮称)青葉区美しが丘2丁目計画 新築工事	
建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving		重点項目への取組(5点満点)		【省エネルギー性能】	1
■省エネルギー性能					
この建物の設計一次エネルギー消費量		9 %削減			
		再エネなし		再エネあり	
		削減率		9%	
		BEI値		0.91	
基準一次エネルギー(100%)					
■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)					
断熱等級は等級5相当以上である。					
健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community		重点項目への取組(5点満点)		【快適・働きやすさ】	3
■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)					
■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)					
■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)					
防災への配慮 (R) Resilience		重点項目への取組(5点満点)		【防 災】	3
■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)					
⑮耐用年数の長い躯体材料および配管材料を採用					
⑰100Mbitクラスのブロードバンド設備を整備					
地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape		重点項目への取組(5点満点)		【地域・まちづくり】	3
■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)					
太陽光発電などの導入		環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)			
太陽光利用					
エネルギーマネジメントシステム導入					



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<集合住宅>

受付日 2026年1月19日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)青葉区美しが丘2丁目計画
画 新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

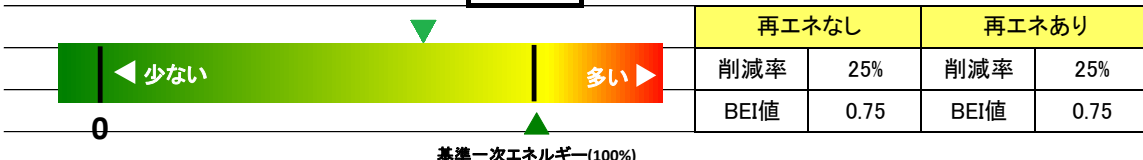
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

4

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 25 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

断熱等級は等級5相当以上である。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

4

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級5 (相当) ※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯耐用年数の長い躯体材料および配管材料を採用

⑰100Mbitクラスのブロードバンド設備を整備

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

— — —

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)青葉区美しが丘2丁目計画 新築工事

バージョン

CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	3.2
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.3
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.49	3.0	0.50	-
1.2 遮音				3.0	0.49	3.0	0.50	-
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	-
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音				3.0	0.01	3.0	-	-
2 温熱環境				2.2	0.35	4.4	1.00	3.9
2.1 室温制御				3.0	0.63	5.0	0.71	-
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.63	-	-	-
2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.37	5.0	1.00	-
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	3.0	0.29	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	1.0	0.38	-	-	-
3 光・視環境				2.7	0.25	3.2	1.00	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.31	2.4	0.50	-
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.58	3.0	0.50	-
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	1.0	0.30	-
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.42	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策				2.0	0.29	4.0	0.50	-
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	1.00	4.0	1.00	-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.26	-	-	-
4 空気質環境				3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
4.1 発生源対策				3.0	0.59	3.0	0.63	-
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	1.00	3.0	1.00	-
4.2 換気				3.0	0.39	3.0	0.38	-
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理				4.0	0.01	-	-	-
1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				2.8	0.40	3.6	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60	-
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	4.0	1.00	-
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				2.9	0.30	3.0	0.40	-
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.02	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.02	-	-	-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.96	3.0	0.50	-
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				3.0	0.02	3.6	0.50	-
1 階高のゆとり				3.0	0.60	4.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	-

	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.02	3.0	0.50	-
	3.3 設備の更新性		3.0	0.97	-	-	-
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり ⑩生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり ⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり ②地域性への配慮	3.0	0.50	-	-	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ ④敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能 ①建物の熱負荷抑制	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能 ②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		4.3	0.50	-	-	4.3
	集合住宅以外の評価	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	1.0	0.05	-	-	-
	集合住宅の評価	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	4.5	0.95	-	-	-
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	0.05	-	-	-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
	集合住宅の評価		3.0	0.95	-	-	-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.6
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		3.0	0.40	-	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減		4.0	0.60	-	-	4.0
	2.1 材料使用量の削減		4.0	0.11	-	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		5.0	0.22	-	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.22	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	-
	1 消火剤		-	-	-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)		4.0	0.50	-	-	-
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		4.0	0.33	-	-	4.0
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	-
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
	3 交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-
	1 騒音		3.0	0.50	-	-	-
	2 振動		-	-	-	-	-
	3 悪臭		3.0	0.50	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
	2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-	-
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目				-	-	-	-
<事務用途>				-	-	-	-
知的生産性向上への取組			快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-
<住宅用途>				-	-	-	-
健康と安心				-	-	-	-
1	化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	1.0	-	-	-	-